

群馬県商店街振興組合連合会 視察研修会

11月29日、県内の商店街組合の役職員と関連する群馬県、商工会議所職員12名が参加。
新潟県長岡市へ向かい、商店街組織の活動や地域の交流施設などの見学を行った。

■長岡市商店街連合会

店主が講師となり、お客様にプロのノウハウを伝える「まちゼミ」など活性化事業を展開。

長岡市商店街連合会の理事長・安藤栄治氏と事務局の稲垣氏による研修会を行った。参加者は、まちゼミの成功の秘訣やまちゼミの協力店舗の増加・維持のポイントについて学んだ。

また、予定していた商店街の見学は、あいにくの悪天候のため断念し、商店街の歴史をまとめたビデオを視聴した。

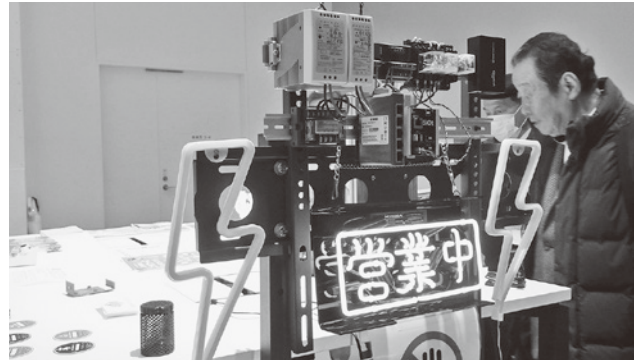


まちゼミについて解説する安藤理事長

■ミライエ長岡

「人づくりと産業振興」を総がかりで支える
地方創生の拠点。2023年夏にオープン。

同施設は、明治時代、藩士だけでなく、町民、農民の分け隔てなく学ぶことができた「国漢学校」の跡地に建設されたもの。創設者の思想から名付けられた「互尊文庫」と呼ばれる図書館やオープンイノベーションの拠点「ナデックベース」を中心に館内の見学を行った。互尊文庫では、見ていてワクワクする本棚づくりに触れ、ナデックベースでは、3Dプリンターなどのデジタル工作機器を活用し、自由に試作品やオリジナル作品などを作成できる「ものづくりラボ」を見学した。



興味深く工作機器を見学する参加者

■アオーレ長岡

長岡市役所とアリーナなどが一体となった全国初の複合交流施設。市民協働・交流の拠点。

施設案内者より、同施設の外観や構造について案内を受けた。特徴的な市松模様の外観は、行政と市民の活動が、市松模様のように交ざり合うというデザインコンセプトであり、議場や市役所はガラスで仕切られ、開かれた行政というメッセージが込められた設計であると明かした。

参加者は、全ての建物をつなぐ屋根付きの大きな広場へ移動。移動販売車などの出店も可能なイベントスペースや、併設するアリーナで行われていたプロバスケットチームの練習風景を見学した。



プロバスケットチームのホームアリーナに選ばれている

群馬県中小企業団体事務局長会 研修会・懇親会

12月12日、高崎市・エテルナ高崎において、
前橋市の遊園地「るなばあく」の園長を招いた研修会及び懇親会を開催した。

研修会

るなばあく園長・原澤宏治氏が講師となり、「るなばあく再生物語」と題して研修会を実施した。

はじめに、原澤園長は、るなばあくの園内の様子や自身の経歴、園長就任の翌年に過去最高の利用者数を記録した実績を語った。就任当初、るなばあくのスタッフは高いホスピタリティを持つも、自律性が低かったと話し、各種取組みを講じるほか、園長と対話できる環境を設けることで、当事者意識が生まれ、改善と再生に至った経緯を明かした。

その後、「現場主義」の重要性に触れ、責任者が現場に出ることで、現場の変化や、改善のアイデアに「気付く」ことができ、気づきは「気遣い・気配り」に繋がると園の運営に対する自身の考え方を示した。

最後に、るなばあくのコンセプトである「にっぽんいちなつかしい」の伝統と魅力を守りつつ、園をハブ拠点として、地域を活性化していきたいと語り、研修会を終了した。



②「乗り放題パスポート」の導入



スタッフがデザインした
乗り放題パスポート

人との接触を減らすことを目的に、手渡しの回数券に代えて、コロナ対策パスポートを導入。遊具利用券8回分(400円)と交換すれば乗り放題となる。コロナが5類感染症へ移行した後も継続し、来場者から好評を得ている。

③「おむすびのママ」の運営

地域の食材を使用し「おむすび」に特化した軽食屋兼休憩所の営業を開始。おむすびのほか、特に唐揚げが人気となり、食事目的での入園者も現れるようになった。



くつろいで食事ができる
おむすびのママ店舗外観

懇親会

津久井真次会長の挨拶の後、新規加入の会員を紹介し、下田元美副会長の発声により乾杯。終始和やかな雰囲気での交流が図られる中、栗原みゆき副会長の中締めで盛会裏に終了となった。



栗原副会長による中締めの様子

原澤園長が行った取組み事例

- ① LINEで情報配信
- ② 「乗り放題パスポート」の導入
- ③ 「おむすびのママ」の運営

① LINEで情報配信

約17,000人の登録者数を誇る。あえて情報配信数を絞ることで、登録者の購読率を高めるよう工夫を凝らしている。

